久屋小だより

～気づき　考え　みんなで創り出すⅢ～令和５年　１１月号

「気づき　考え　みんなで創り出す」㉜

～全校朝礼から～

全校朝礼を行いました。はじめに表彰式をしました。審査会やコンクールに出品すると，当然賞はつきますが，子どもたちが自分たちの作品を最後まで作り上げ，達成感を味わい，やりきったと思えることに教育的な意味があると思います。その中で，入賞した子どもたちには，この経験が強い励みとなって，よりいっそうの探究心や学びへの意欲が高められていくかもしれませんね。

コップをひっくり返してもこぼれない水

表彰式の後には，子どもたちに話をしました。はじめに，ある「謎の白い粉」を見せました。その粉を水の中に入れると，なんと水は固まります。子どもたちはびっくりしていました。さて，謎の白い粉の正体が何か，もうお気づきですか？そうです。**「吸収性ポリマー」**です。この吸収性ポリマーを使った身近なもので，一番メジャーなものが紙おむつです。子どもたちには，紙おむつのしくみについて話をしました。ただ，子どもたちに一番伝えたかった話は，**吸収性ポリマーを，「子どもたちは学びに」，「教師は授業に」活用することができないか**ということです。本来の用途ではなくとも，その性質によっては**いろいろなことに活用**することができることを知ってもらいたいと思いました。つまり，**「性質に気づく」，「活用できないかと考える」，そして「新たな学びや授業を創る」**ということがテーマでした。

今から２０年以上前，私が３０代のころの話です。テレビで紙おむつのＣＭが流れていました。水が入ったコップの中に，吸収性ポリマーを入れると水が固まる場面が映像として流れていました。だから，尿がもれずに，赤ちゃんの肌を守ってくれるという話だったと思います。この時，「この吸収性ポリマーを使えば，見えないものが見えるかもしれない。」と思いました。では，何が見えるのか考えました。当時，３・４年複式学級の担任だった私は，理科の授業で，植物のしくみを子どもたちにどう学ばせていくか考えていました。「これだ！！」と思いました。この学習の中では，植物の根・茎・葉の基本３要素について学んでいきますが，根は土の中にあり，成長過程をとらえることができにくいです。ですが，この吸収性ポリマーを使って栽培すれば，根の成長過程をとらえることができるかもしれないと考えました。実際にやってみたら，しっかりと根の成長を観察していくことできました。

成長した根の様子

今，求められている学力の一つに**「活用力」**があります。**学んだことや発見したこと，気づいたことを，自分の学びやくらしに活用し，新たな学びやくらしを創造していく中で，協働的に課題・問題を解決していく力が，子どもたちが将来社会に出た時に，子どもたちを支えていく大事な力**です。その意味が，本校のスローガン**「気づき　考え　みんなで創り出す」には込められています。子どもにも，教師にも，「活用」が求められている**と思っています。

話の最後に，「こんなこともできそうだね。」と，色水と吸収性ポリマーを使ったグラデーションを見てもらいました。図工などにも活用できるかもしれませんね。

さつまいもの収穫体験をしました

１・２年生が地域の方とともにさつまいもの収穫をしました。大きなさつまいもがたくさんとれました。また，面白い形をしたさつまいももたくさんとれました。子どもたちは大喜びでした。

自然の恵みを実感したり，農作物の生産者の方への感謝の気持ちを高めたり，収穫体験は貴重な学びだと思います。また食生活とは，命を大切に育み，その命をいただく行為であることを考える機会にもなります。体験の中での「気づき」を今後のくらしにつなげてほしいと願っています。

５年生　宿泊体験学習

５年生が来年度の久屋小学校を創っていきます。「気づき　考え　みんなで創り出す」力がいっそう求められてきます。自分たちで時間や次にすべきことに気づき，考えて行動していかなければ，２日間の宿泊体験学習を進めていくことはできません。この宿泊体験学習は，最高学年としての力を高めたり，集団としての課題を見つけたりする場になったと思います。また，長久小学校，川合小学校の子どもたちとともに，大きな集団で過ごす楽しさや喜びも実感できたと思います。保護者の皆様，ご協力ありがとうございました。

ＰＴＡ研修会

公認心理士の玉木敦先生をお招きし，ＰＴＡ研修会を行いました。お世話になりました玉木先生との出会いは，私が２３歳，おそらく玉木先生は当時３２歳ぐらいだったと思います。玉木先生のお話を聞くたびに目から鱗でした。玉木先生のお話の中で常に一貫していることが「他者理解と自己理解の中で生き方を創造する」ということだと私は思っています。これは，他者とのかかわりの中でより豊かにくらしたり，人間関係を築いたりしていく上でとても大事なことで，この日のテーマにもつながっていました。子どもたちは自分を振り返り，保護者は我が子を見つめ直しながら，「自分の取扱い説明書」を作っていくことで，自己理解，子ども理解につながる機会になったと思います。「自分を知ること」と「相手を知ること」の中に，「感謝」の気持ちが重なれば，豊かな生き方や人間関係が醸成されていくことを実感できる有意義な研修会になりました。